

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372001384
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	しんさかえケアセンターそよ風
訪問調査日	平成19年9月25日
評価確定日	平成19年11月14日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2372001384
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	しんさかえケアセンターそよ風
所在地	豊橋市新栄字鳥瞰111番 (電話) 0532-34-7351

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年11月14日

【情報提供票より】(平成19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(平成19年8月31日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	9名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.6歳	最低	65歳	最高	94歳
協力医療機関名	医療法人善恵会 長屋病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1階には、デイサービスセンターが併設されており、2、3階がグループホームとなっている。ホームは住宅地の中に位置し、老人会の行事や町内の夏祭りなど、事業所を利用してもらっており地域と良好な関係を築いている。管理者、各ユニットリーダー、職員とのチームワークがよく、職員は入居者を第一に考え、個別ケアに力を入れている。入居者には、家にいた時の生活をホームでも継続してもらえるよう、制限はせず希望にはできる限り対応するよう取り組んでおり、ユニット会議、グループホーム会議、事業所の全体会議など、職員同士話し合う機会を多く設け、情報を共有している。家族との関係も大切にし、来訪時や家族面談の際にコミュニケーションを図り、よりよい関係づくりに努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、全体会議で話し合い改善に向け、できることから取り組んだ。フロアやベランダは危険防止のため施錠していたが、ベランダの施錠を止め、現在は安全に過ごし開放的である。また、家族から意見や要望を出してもらい話し合う機会として面談を行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から評価の意義について説明をし、職員一人ひとりが自己評価に取り組み全員が提出をした。自己評価に取り組むことで日常のケアを振り返る機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者家族、町内会の総代、民生委員、老人会会長、オーナーの参加もと3カ月に1回会議を開催している。家族には全員に案内を出し、各ユニット2~3家族が参加している。会議では、行事報告を行い運営上の変更点や検討課題等について話し合っている。メンバーからも率直な意見やアドバイスがあがっている。職員には会議の時に報告をしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口や外部の相談窓口について入居時に説明している。家族と良好な関係を築いていきたいと家族面談を2~3カ月に1回行っており、介護計画の説明や意見、意向を聞き取り、記録に残している。いただいた意見は真摯に受け止め、職員と相談したり、家族とも相談しながら運営に反映させるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の夏祭りを事業所の駐車場を利用してもらっている。また、老人会がデイルームを利用してきており、地域と良好な関係を築いている。小学校の体験学習を受け入れており、高校生がボランティアとして訪問してくれたこともある。保育園や町内の運動会の見学に行き、入居者も楽しめた。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念の他に、グループホーム独自の基本理念を作成している。「毎日の生活を大切に笑顔がひとつでも増えますように」を合言葉としている。職員から募集してもらいグループホーム全体会議で話し合い決めた。		地域密着型サービスとしての役割は理解しており、地域との関わりも積極的に取り組んでいる。今後は、理念の中にも地域との関わりについて織り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの事務所に掲示されている。月1回行われるユニット会議や全体会議で理念を唱和している。入居者の笑顔がひとつでも増えるように、職員は入居者の立場に立って考え、声かけを意識し、会話の中からできることを見出し職員中心のケアではなく、入居者本位のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の夏祭りを事業所の駐車場を利用してもらっている。また、老人会がダイルームを利用してくれており、地域と良好な関係を築いている。小学校の体験学習を受け入れており、高校生がボランティアとして訪問してくれたこともある。保育園や町内の運動会の見学に行き、入居者も楽しまれた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果については、全体会議で話し合い改善に向け、できることから取り組んだ。フロアやベランダは危険防止のため施錠していたが、ベランダの施錠を止め、現在は安全に過ごし開放的である。管理者から評価の意義について説明をし、職員一人ひとりが自己評価に取り組み全員が提出をした。自己評価に取り組むことで日常のケアを振り返る機会となった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者家族、町内会の総代、民生委員、老人会会長、オーナーの参加のもと2カ月に1回会議を開催している。家族には全員に案内を出し、各ユニット2~3家族が参加している。会議では、行事報告を行い運営上の変更点や検討課題等について話し合っている。メンバーからも率直な意見やアドバイスがあがっている。職員には会議の時に報告をしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ケアマネジャーが市役所を訪問し、相談にのってもらいアドバイスをいただいている。また、2カ月に1回、市の介護相談員の訪問があり、入居者や事業所の相談にのる体制がある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ユニット毎に「そよ風だより」を毎月発行し家族に送付している。誕生日や外出、行事の様子が多くの写真で紹介されている。家族の来訪時には、居心地よい雰囲気づくりを大切にしており、入居者の状況や様子について伝え、要望や意見を聞くようにしている。家族アンケートの結果からも報告や気軽に訪ねやすい雰囲気については高い評価を得ている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口や外部の相談窓口について入居時に説明している。家族と良好な関係を築いていきたいと家族面談を2~3カ月に1回行っており、介護計画の説明や意見、意向を聞き取り、記録に残している。いただいた意見は真摯に受け止め、職員と相談したり、家族とも相談しながら運営に反映させるよう努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内による管理者の異動はあるが、介護職員の異動は少ない。管理者の異動の場合は入居者、家族にきちんと説明している。基本的に職員は各ユニットで固定されているが、事情によりユニット間で異動することもある。入居者のダメージを防ぐため、新人職員はまず入居者を把握し、顔を覚えてもらうことから始めている。入居者が不穏になると、他の職員がフォローをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数により実践者研修の受講や法人内の研修、愛知県グループホーム連絡協議会の研修等、外部研修の機会が設けられている。外部研修には勤務内に行っており、参加した職員は会議で報告し、研修報告書や研修資料を職員に配布したりしている。		外部研修には、正職員、パート職員問わず自由に参加する機会が設けられている。研修後の報告会も実施されており、さらにステップアップの機会として、ホーム内における勉強会の充実にも期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年、愛知県グループホーム連絡協議会に加入した。研修には、職員に希望者を募り参加している。管理者は、他のグループホームの管理者と連絡を取り、相談や情報交換する機会を設けている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者には、ホームに見学に来てもらい、雰囲気を知ってもらうため、一緒にテレビを見たりお茶を飲んだりして、他の入居者や職員とのふれ合いを大切にしている。体験入居を実施しており本人が納得するまで行い、2日～1週間など期間も様々である。本人が来られない場合は、ホーム職員が訪問し面接をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にする仲間として、入居者に寄り添うことを大切にしている。尊敬の念を持ち親しみを込めて、時には、嫁や娘のように接することもある。調理の仕方や裁縫、行儀作法、戦時中の話しなど、職員は生活の知恵を入居者から教えてもらうことが多い。入居者それぞれに合った役割を持ってもらい、共に支え合う関係を築けるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日常のケアの中で、入居者が話したことや、行動など、気付いたことをノートに記し、色々な角度から入居者の把握に努めている。1対1でゆっくり話す時間を持ち、お互いに本音で話し合うようにしている。個人的な外出希望には、できる限り1対1で対応するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに基づき、本人や家族の希望を踏まえて介護計画を立てている。家族面談を実施することにより、より本人の状況や家族の思いを知ることができた。職員とは、日々の申し送りやカンファレンス、サービス担当者会議などで話し合い、意見を介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者毎に担当職員が決まっており、毎月、ケアマネジャーと担当職員がモニタリングを行い、入居者のできること、できないことを把握している。また、入居者に変化が生じた場合は、必要に応じて新しい介護計画を作成している。介護計画を見直した場合は、ユニット会議で職員に周知している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>月1回、協力病院の医師がホームを訪れ健康チェックを行っている。他に内科、歯科、皮膚科の協力医院があり、随時往診可能である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医への受診については、ホームで対応している。入居前のかかりつけ医への受診は基本的には家族に対応してもらっているが、家族の状況によってはホームで対応することもある。運営推進会議でも話しがあたり、今後の検討課題としている。入居者、家族の要望に応えようとする姿勢がうかがえる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の対応については、家族と話し合い、協力医とも連携について話し合いが行われている。職員も研修に参加している。将来的には対応していきたいと考えているが、現在、対象者がいないこともあり、方針や取り決めとしては決まっていない。</p>		<p>家族とも家族面談において話し合いがなされ、協力医とも連携が取れている。早い段階から方針をたて、関係者と共有されることを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはしないよう職員には常に伝え、意識を統一している。職員同士でもチェックし合い、意識は高い。カルテやその他個人情報については、入居者の目に触れないよう事務所で管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者に、自分の家と代わらず生活していただくことを基本とし、全員で行う活動は少なく、個々の趣味や嗜好を大切にしている。職員が付いて買物も自由に行くことができる。起床や就寝時間、食事時間も柔軟に対応している。喫煙、飲酒もルールを守ることで可能である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、その日の食材を入居者と職員と一緒に買物に行っている。その時に、入居者との話し合いでメニューを変更することもある。食事の用意や片付けを入居者と職員が行っている。食事中も会話が多く、楽しい雰囲気であった。入居者の希望を聞き、時々出前や外食になることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日15:30~17:00の好きな時間に入浴することができる。現在、希望がなくこの時間になっているが、希望があれば他の時間にも入浴可能である。浴室には個浴の浴槽が2個設置されている。毎日、入浴剤を変えており、入居者の楽しみになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者には、それぞれに合った役割があり、職員がさりげなくサポートしている。編み物や広告を使った箱作りなど個々の楽しみを続けていけるよう支援している。1日1回オリジナルの梅干体操を行い身体機能の維持に努めている。併設のデイサービスセンターのカラオケに参加する人もおり、入居者はそれぞれ自由な形で行事やレクリエーションに参加している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の外出希望は“その時でないと思ってももらえない”と考え、できる限りすぐに対応している。買物先は、入居者の馴染みの店など、希望にも対応している。月1~2回程、皆で出かける機会を設けている。また、個別にも希望を聞き、墓参りや喫茶店など、月1回は個別の外出支援に力を入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階はデイサービスセンターがあり、ホームは2、3階にあるので、事故防止のためエレベーターホールへの出入口を常時施錠している。以前は、窓にも鍵をかけていたが、今は止め、入居者が自由に窓を開け、ベランダに出ることができる状態にしている。現在は安全に過ごし開放的である。		入居者家族から、安全のため施錠の希望の声もある。窓の施錠をなくした経緯もあり、家族と話し合いを進め、安全面に配慮しながら少しでも開錠できるよう取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者と一緒に避難訓練を行っている。火災を中心に日中、夜間と想定を変えて行い、消防署と連携した訓練も行っている。設備点検は業者に依頼して行い、非常用の飲料水と食料は3日分倉庫に保管してある。		火災以外の災害を想定した訓練の実施や地域の人々の協力が得られるよう働きかけに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人で作られた献立表があり、栄養摂取量も表示されている。献立表を基に食材を購入し、食材を見て入居者の意見でメニューを変更することもある。食事、水分摂取量を毎日記録している。体重測定を月1回行っており、2階の入居者は本人がチェック表に記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、広いリビングで、入居者は各々好きな場所で好きなことをしてくつろいでいる。季節を感じる花や置物などがさりげなく飾られている。廊下には、行事や外出時の写真が多く掲示され、入居者とのコミュニケーションに役立っている。ベランダでは、プランターで野菜や花を育てており、入居者が水遣りなど世話をしている。温度管理は、温湿度計を見ながら快適に過ごせるよう努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、入居者が選んだ本人の写真が飾られている。クローゼットは備え付けになっている。ベッドは使い慣れた物を持ってきてもらうようお願いしているが、状況に応じてホームで用意している。馴染みの家具や畳、絵手紙や塗り絵、好きな芸能人の写真など各々好きな物を飾って楽しまれている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。